■中井(大和守)正清
なかいまさきよ
將軍義輝自刃1565＝

関ヶ原の戦直後に徳川家康に用いられ、重要な城郭や寺社を担当して全面的信頼、中井役所の祖になった。

大和国の_代々法隆寺を維持してきた大工集団の本拠地西里で、法隆寺番匠中井正吉の子に生まれる。通称は藤右衛門。正吉の父正範は、三輪神社の神官をつとめた巨勢一族の人であったが、合戦に赴いて戦死、幼かった正吉は、母方の縁者である中井家にひきとられたと言う。法隆寺番匠をつとめる中井家は法隆寺の屋根に上がるためには殿上人でなければならないことから、代々、官位を得ていた。

織田信長入京1568＝ 3歳：

長島一揆鎮圧1574＝ 9歳：

本能寺の変・1582＝17歳：本能寺の変で、**豊臣秀吉が天下をとり**、
賤ヶ岳の戦い・1583＝**18歳**：大坂城築城にかかった際、奈良大工として、父正吉も関わったと思われ、以後、それまでの争乱で荒廃しきった社寺の修復・再建が急ピッチで行われ始め、畿内の大工職人たちが大活躍するうち、**豊臣家の御大工**、棟梁司になった中井家の嫡男として、腕を磨くうち、おそらく、秀吉のもとで行政手腕を発揮する異父弟**豊臣秀長**が、**藤堂高虎**、**小堀新助**(遠州の父)を抱えて建設事業を一手に差配、彼らのもとの工事を担った**法隆寺大工の一員**として知られるようになったらしく、

刀狩海賊取締1588＝23歳：「中井家家譜」では、伏見で、**徳川家康に召し抱えられた**という。

秀吉全国統一1590＝25歳：

土農工商公布1591＝26歳：秀長が死去。

文祿の役・1592＝**27歳**：「中井家家譜」では秀吉時代の活躍は隠されてしまったが、**秀吉が隠居所として伏見城建設に着手したが、諸大名が朝鮮に出征していたため、徳川家康が指揮することになった際にも、重用され、**

方広寺大仏殿1593＝28歳：**秀吉が東大寺大仏殿に倣って京都東山に方広寺を建設した際も、棟梁司父のもとで働く**などするうち、

26聖人殉教・1596＝31歳：転交を経て完成したばかりの伏見城が慶長伏見地震で崩壊、

慶長の役・1597＝32歳：木幡山に再建伏見城が完成したが、

豊臣秀吉没・1598＝33歳：**秀吉は死去。以後、伏見城を預かる家康の技術顧問的な存在として、常に近侍するとともに、豪胆な性格で戦も厭わなかったらしく、**

関ヶ原の戦い・1600＝35歳：***関ヶ原の戦でも、標的にされ焼失落城した伏見城にあって、工兵隊の頭となって活躍、勝利した徳川家康から、おそらく、豊臣方に有能な大工を置いておかぬようにする思惑で、いきなり、200石を与えられ、上方(畿内・近江6カ国)の大工支配を託され、**

朱印船制始・1601＝**36歳**：家康が威信を示すべく始めた**二条城建設に、造営総奉行の京都所司代板倉勝重のもと、大工頭となり、東本願寺創建1602＝37歳**：二条城の勘定帳には、初名の藤右衛門で記載されている。方広寺が焼失。**小堀政一(のち遠州)のもとで、関ヶ原の戦いで焼失した伏見城再建の作事にもあたり、**

阿国歌舞伎始1603＝38歳：家康が豊臣家の富を消費させるべく、秀頼に社寺の復興を勧めたが、その皮切りとして、法隆寺諸堂の修理に当たりながら**二条城御殿を完成させるなど、空前絶後の活躍となる。**

糸割符法始・1604＝39歳：遠州の書状から、数寄屋についても相当な技術を持っていたことが分かる**伏見城本丸小座敷(茶室)、知恩院御影堂以後その諸堂建設に従事、**

徳川家康隠居1605＝40歳：近江出身の甲良宗広を下棟梁に用いて、増上寺山門を建立し、のちに、甲良は大棟梁になっていく。

江戸城御殿・1606＝41歳：豊臣家による相国寺山門建設も自らの配下に当たらせて、監視を怠らない。***二条城天守も完成させ、仙洞(後陽成院)御所の作事奉行小堀遠州従い、上棟式に際し、従五位下大和守に叙任されて、上方の幕府の御大工全てを支配することになり、法隆寺の大修理の際、その棟札に、"番匠大工一朝惣棟梁橋朝臣中井正清"と記し、日本一の大工になったことを誇る。以後、マネージメントする遠州のもと工事を担うコンビで、江戸ははじめ各地で作事に当たるようになる。遠州の名声は、正清あってこそというわけである。**

家康駿府退隠1607＝42歳：**藤堂高虎とコンビで江戸城の天下普請を差配し、天守を設計、**

.....1608＝43歳：続いて、前年に失火で焼失した**駿府城築城にも着手し、**

島津琉球支配1609＝44歳：翌年にかけて、駿府の寺社を建築。**大和国添下郡に1,000石を知行所を拝領、黒印状の'中井大和守へ'の文字は家康の自筆と伝えられるほど信頼され、**

琉球使始・1610＝**45歳**：北野天満宮に、田村左兵衛の手になる虎図の絵馬を奉納。***この年完成した駿府城の天守が早々に完成したことを、大久保長安から聞いた家康は、'何事も御普請方の儀、大和守次第'と言うに至り、**

山田長政渡航1611＝46歳：女院(新上東門院)御所。**5年間続けてきた増上寺諸堂が完成。方広寺大仏殿、**

刃込教禁止・1612＝47歳：**巨大かつ壮麗な名古屋城の天守、後水尾天皇のための新内裏の作事も命じられ、大名と同等になる大工棟梁としては異例の従四位下に昇叙し、下級武士から妬みを買うような事件まで起きる。**

支倉常長渡欧1613＝48歳：春日社。**紫宸殿を完成させなど、主要建築だけでなく、幕府発足以来、大久保長安のもとで、江戸の町割りにも携わってきたように、土木工事についても、家康は、正清を通すように家臣たちに命令するが、**

大坂冬の陣・1614＝49歳：徳川家康に、宇治川開削計画を上申、実現しなかったが、明治維新後の琵琶湖疏水事業を300年近く先取りするものであった。方広寺の鐘名にある「国家安楽、君臣豊楽」の文字が問題となり、自らも、棟札に大工棟梁の名が無いことを訴え、徳川、豊臣の対立が一気に激化、**大坂の陣になると、大坂城の絵図を作成して攻略法を建言し、茶臼山に家康の陣小屋をつくり、城攻め用の大梯子や砲台なども製作して参戦、**

大坂夏の陣・1615＝50歳：**夏の陣では、豊臣方の憎しみの的になって、生家が豊臣配下の者に焼かれ、西里の多くの家屋も焼けて、京都へ移住。残った大工も移転するか転職して、西里は大工の町ではなくなってしまふ。**

徳川家康没・1616＝51歳：**家康が死去すると、急いで仮殿を造営して久能山東照宮となり、増上寺に位牌安置所の安国殿を建立、**

吉原遊郭始・1617＝52歳：**遺言によって、本葬することになる日光東照宮も手掛けたが、**

菱垣廻船始・1619＝**54歳**：生来大酒飲みであったことが祟ったのか、***家康の後を追うように、没した。**

中井家は、子の正伯(まさとも)に引き継がれ、さらに、その子・孫へと受け継がれ、1693年には、中井役所が成立し、京都御所や下鴨神社、上賀茂神社などの大修理を代々に渡って手掛けていく事になる。